

原発事故と復興のはざままで

福島県相馬市・南相馬市訪問記

長谷川 宏 法学部教授



福島県相馬市・南相馬市に行ってきました。「3・11」以前から原発放射能被ばくの問題に関心をもち、情報を集めてきましたが、私の知識の大半は書籍やインターネット経由のもので、もっと自分の目と耳で実際に確かめたいと感じていました。また福島の人たちが放射能の不安や放射能汚染が引き起こした生活上の困難に直面しているのを知り、自分にも何かできることはないかとずっと思っていました。

相馬市の病院を訪問

福島で活動している知っていることがわかり、う人のK氏(相馬中央病院放射線対策室長)のおかげでその機会を得ることができました。院長先生にお話を聞きました。震災時には津波が病院のすぐ近くに達しました。原発事故が起きました。原発の北40キロほどのこの病院はむずかしい決断を迫られました。院長は事務長とともに医療を続ける決意をし、それを毅然と医師や職員に伝え、多くの医師や職員も踏みとどまったそうです。院長と事務長は長期間病院に泊まり込みで対応されました。

放射線量と復興の現状・課題

今回の訪問のもう一つは購入した線量計を持参の目的は、福島の放射線汚染を自分の目で確かめること、「3・11」後福島駅から相馬市行きの

バスに乗りました。福島市でも線量が0.6μSv/h(毎時0.6マイクロシーベルト)台まで2μSv/h台を計測し

断は一種の「賭け」でしたが、おかげで多くの入院患者の命が守られました(事故後の混乱や避難の困難の中で多くの患者が亡くなってしまった病院もありました)。非常事態には(設備や物資の備

避難した場合の経済的補償が希望する人全員には約束されていない以上、放射線量以外にも経済的な生活設計等さまざまな要因を考慮しなければなりません。そのような状況下で「福島は放射能の危険があるので人が住むべきでない」という言い方は雑に過ぎるでしょう。「全員一律にYesかNoか」という大ざっぱな態度でなく、きめの

今回の訪問の第一の目的は、相馬市の病院で行われる骨粗鬆症研究の倫理審査委員として委員会に参加することでした。

今回の訪問のもう一つは購入した線量計を持参の目的は、福島の放射線汚染を自分の目で確かめること、「3・11」後福島駅から相馬市行きの

バスに乗りました。福島市でも線量が0.6μSv/h(毎時0.6マイクロシーベルト)台まで2μSv/h台を計測し

今回の訪問のさらなる目的は、ボランティアの可能性を南相馬市の関係者と相談することでした。相馬市は津波被害に遭った地域も復興が進ん



▲ 福島第一原発の北8～9kmの通行規制地点(南相馬市小高区下浦)にて、取材中のスイス人ジャーナリストと。線量計は0.4μSv(マイクロシーベルト)/h台を示している(右が長谷川教授)

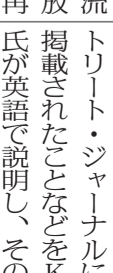
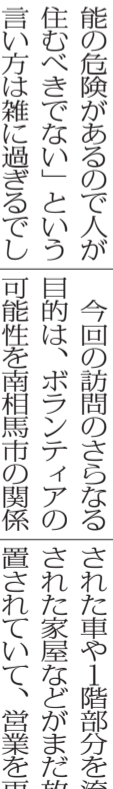
自分で給食の設備を持っていて、病院内の屋上に給水タンクを備えており、すぐに空になってしまふ(透析がこんなに大量の水を使うとは初めて知った)と事務長は苦笑していました。タンクへの給水も何とか確保でき、持ちこたえることができたそうです。

今こそ相馬市は原発に近い割に汚染が少ないことがわかっていまして、事故直後はほとんど情報がありませんでした。そんな状況下での判

津波によって流された南相馬市の橋。橋の向こうの丘の上に逃げた人たちは助かったが、津波の第1波の後、家の様子を見てくると言われてしまった人もいたという

親など家族全員を津波で失ってしまいました。失ったのでしよう。またその方は、津波が引いた後の土地で泥まみれで家族の遺体を必死で探し回った。その詳細は別の機会に譲り、最後にK氏はじめ相馬中央病院の医師・職員の皆様、南相馬市のBさんなど、お世話になっ

見て、皆さんのお話を聞き、初めてわかることがたくさんありました。私に何ができないか不安を感じつつも、少しでもお役に立てればと3月末に相馬・南相馬を再訪しました。その詳細は別の機会に譲り、最後にK氏はじめ相馬中央病院の医師・職員の皆様、南相馬市のBさんなど、お世話になっ



南相馬市の海岸沿いには、津波によって流され破壊された車がいまも多数廃棄されている

津波によって流された南相馬市の橋。橋の向こうの丘の上に逃げた人たちは助かったが、津波の第1波の後、家の様子を見てくると言われてしまった人もいたという

相馬市では復興も進み、新設された復興住宅の内覧会が行われ、テレビ局も取材に来ていた

制地点ぎりぎりまでK氏が車で南下してくれました。車を降りて測ると、0.4μSv/h台でした。原発から8～9キロの至近距離で、原発から50キロ以上離れた福島市内の高線量地域(バスの中で0.6μSv/h台)と比べても低いのは驚きでした。福島市・相馬市間の線量が高い山中(バスの中でも1.2μSv/h台)と比べれば約3分の1です。距離による線引きの無意味さ、ていねいな測定ときめの細かい線引き・対応の必要を痛感しました。